



文化財活用センター事業報告書 2018・2019年度



独立行政法人国立文化財機構

文化財活用センター

〈ぶんかつ〉ミッション

文化財を1000年先、2000年先の未来に伝えるために

文化財は、長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた人類のたからものです。私たちは、文化財を通して、それをつくり、つかった人びとの暮らし、大切にしてきた思い、美しいと感じるところに触れ、歴史やそこに流れる伝統的な価値観を学ぶことができます。それは、私たちがお互いを尊重し、豊かな人生を生きるための糧であり、新たな文化を創造する源になります。

この人類のたからものである〈文化財〉を1000年先、2000年先の未来に伝えることは、今を生きる私たちに課された重要な使命です。

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会を開発し、情報基盤の整備を目指します。これまでミュージアムを利用する機会に恵まれなかった人を含め、多くの人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財を活用した新たなコンテンツやプログラムの開発を行います。

文化財に関わるすべての人びとが、自ら発案し、その力を発揮する機会をつくるとともに、人材育成に取り組み、地域の活性化にも寄与します。



〈ぶんかつ〉ビジョン

ミュージアムに関わる人はもちろん、一般市民も、企業やさまざまな社会的団体も、すべての人びとが、文化財を「守り」「伝える」ために、考え、参加する社会を作ります。



ご挨拶

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、2018年7月、4つの国立博物館と2つの文化財研究所等を擁する独立行政法人国立文化財機構に設置された組織です。文化財の保存と活用の両立に留意しながら、多くの人に文化財を通して豊かな体験と学びを得る機会を提供することを目指して、さまざまな活動を行っています。

本報告書は、発足した2018年度および翌2019年度に実施した事業について、その概要と成果を記録、公開することを目的として制作しました。本報告書をもとに、課題を整理し、今後の事業に生かしてまいります。また、文化財に関わる機関、施設の皆様に参照いただければ幸いです。

企画、貸与促進、デジタル資源、保存の4つのセクションで事業を開始したぶんかつですが、2019年度には総務担当にファンドレイジングのチームも設けられ、実にさまざまな活動を行ってまいりました。

発足当時は、20人だったスタッフも現在では32人となり、事業の数はもちろん、活動の幅が広がるにつれ、地域の博物館・美術館とのかかわりや、さまざまな企業との連携も深めることができました。

この間、多くの関係機関、ならびに関係者の皆様にご助力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。また、ぶんかつが実施した各種事業にご参加いただいた多くの方々にも、心より感謝申し上げます。

今後も、多くの方々に文化財の魅力を感じていただき、社会全体で文化財を守り伝えるような多様な〈文化財活用のあり方〉を模索し、より一層努力してまいります。

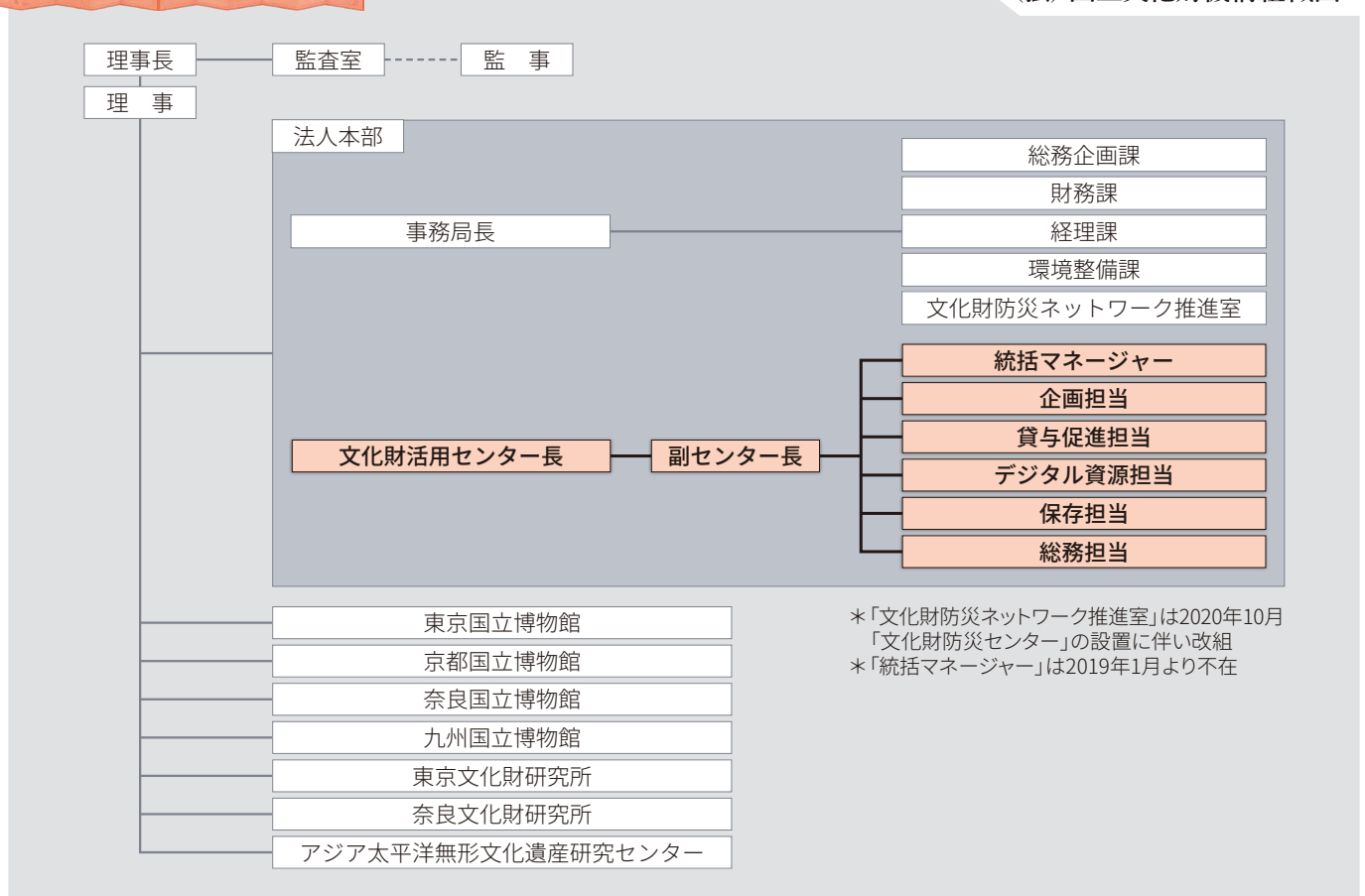


文化財活用センター長 旭 充

組織図

(2020年3月30日時点)

(独) 国立文化財機構組織図



2018年度 文化財活用センター発足

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、2018年7月、国立文化財機構に設置された新しい組織である。文化財の保存に留意しつつその活用を推進することで、地域の活性化や観光振興を促し、保存と活用の好循環を目指す国の文化財政策を背景として生まれた。

国立文化財機構の収蔵品を中心に、文化財の活用の基盤整備を行うとともに、新たな活用方法の開発を行っている。



■ミッション・ビジョンの策定

文化財活用センター設置にあたって、2018年4月に文化財活用センター開設準備室が設けられ、国立文化財機構の杉野剛理事（当時）を中心に、研究員2名、事務職員1名で、〈ぶんかつ〉の事業のありかたについて検討を重ねるとともに、新規雇用、機構内からの異動によるスタッフの確保、事務室の整備などを進めた。

もっとも力を入れたのは、ミッション・ビジョンの策定である。

そもそも「文化財の活用とは何か」。〈ぶんかつ〉はそれを、「一人でも多くの人が文化財に親しむ機会をつくること」と定義し、文化財の活用の目的を、「1000年先、2000年先に文化財を伝えること」と位置付けた。

ミッション・ビジョンは本報告書の冒頭に掲げた通りである。

■4つのセクション

このミッションを達成するために、企画、貸与促進、デジタル資源、保存の4つのセクションを設け、その事業を下記の通りに定めた。

企画	文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進
貸与促進	国立博物館収蔵品の貸与促進とそれに関わる助言
保存	博物館・美術館等からの保存環境についての相談対応や改善のための協力
デジタル資源	文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

■2018年7月1日 開所

東京国立博物館東洋館ミュージアムシアターにおいて、宮田亮平文化庁長官臨席のもと、2018年7月2日に開所式を実施した。あわせて、〈ぶんかつ〉のミッションならびに事業についての報道発表を行った。

発足一年目の事業は、国立文化財機構内の各館・各施設の取り組みを引き継ぎつつ、それを〈ぶんかつ〉のミッションに照らして再構成するかたちで進められた。事業の詳細は、報告書の各セクションのページに譲るが、1年目の収穫は、なにより「文化財の活用」の目的と方向性を明確に打ち出せたことであろう。また、本報告書上で目に見える形にはなっていないが、それぞれのセクションにおいて文化財の活用をめぐる調査等を積極的に行い、新たな知見を得られたこと、それらをもとに2年目に向けた方向性が定まったことといえよう。

2019年度 活動方針の確立

2019年度は、〈ぶんかつ〉の活動方針が定まり、着実な実績を示すことのできた真の意味でスタートの一年だった。また、東京国立博物館をはじめとする、機構内の各館各施設との連携を基盤に、その活動を機構の外へと広げることができた。

■4館2施設との連携強化

収蔵品貸与促進事業の対象となる文化財が、東京国立博物館収蔵品のみから奈良・京都・九州を加えた国立博物館4館の収蔵品に拡大されることが決定。（2020年度募集、2021年度実施展覧会から）。また、国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）へのデータ登録の促進、寄附に関するポータルサイトの構築等に、各館各施設が共同で取り組むなど、〈ぶんかつ〉が中心となって、機構内施設の連携を強化した。

■機構外での活動の展開

前年に東京国立博物館で開催したNHK Eテレとの連携企画「なりきり日本美術館」が九州国立博物館と富山県美術館へ巡回し「なりきり美術館」シリーズとして開催されるなど、〈ぶんかつ〉による新しい文化財活用の方法を他館でも展開することができた。さらに高精細複製品の地域の博物館・美術館への貸与、複製品を活用した訪問授業「〈ぶんかつ〉アウトリーチプログラム」の全国の学校での実施など、その活動が外へと広がった。

文化財保存に関する助言・指導等についても、事業を東文研から引き継いだだけでなく、保存管理専従者等を対象とした、専門性の高い講習会を開始するなど、地域の博物館・美術館における、保存の質的向上に寄与するための事業を拡充した。

■企業・団体との連携とファンドレイジング事業の開始

文化財の新たな活用方法の開発においては、キヤノン、凸版印刷に加え、新たにシャープ、ANAホールディングスなど様々な企業との連携を進めることができた。さらに、ファンドレイジング事業の開始など、社会全体で文化財を守り伝えることを目指す〈ぶんかつ〉のあり方を示すことができた1年であった。



体験型展示(レプリカ・映像活用)

2018年度

実施事業数 4件

多くの方に文化財に親しんでいただくことを目的として、高精細複製品や映像等のデジタルコンテンツを使った体験型展示を行った。複製品ならではのガラスケースなしの展示や最新技術を駆使した双方向型の企画により、高い満足度を得た。文化財の新しい活用の方法を示すことができた。

① 親子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン!なりきり日本美術館」 NHKの人気子ども番組とのコラボレーションによる体験型展示

会期	2018年7月24日(火)～9月9日(日)(43日間)
会場	東京国立博物館本館 特別4室、5室
来場者数	103,320人
アンケート	満足度98.1%(とても面白かった、面白かった)
連携企業等	共催: NHK コンテンツ制作: プロトタイプ、凸版印刷、TNYU
概要	「富嶽三十六景・神奈川沖浪裏」や「見返り美人図」、「麗子微笑」など、NHK Eテレの子ども向け番組「びじゅチューン!」で歌になった東京国立博物館所蔵作品の複製や映像を使った体験型展示。絵の登場人物や筆者になりきって、美術のなかで遊ぶファミリー向け企画。
評価	複製や映像を使用した参加体験型展示の可能性を追求。それによって生まれた能動的な体験が、来館者の鑑賞や理解を深める助けとなっていることが確認され大きな成果となった。



② 高精細複製品によるあたらしい屏風体験「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」 複製品ならではのガラスケースなしの展示と照明演出

会期	2018年10月23日(火)～12月2日(日)(36日間)
会場	東京国立博物館本館 特別4室
来場者数	102,495人(総合文化展入場者数)
アンケート	満足度91.8%(とてもよい、よい)
連携企業等	複製品寄贈: 綴プロジェクト(京都文化協会、キヤノン)、複製品活用事業: キヤノンとの共同研究プロジェクト
概要	「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」(原本: イギリス・大英博物館蔵)の高精細複製品を畳の台に設置し、ガラスケースなしで座って眺めるといった屏風本来の鑑賞スタイルを再現。さらに、当時の灯りを模した照明の演出も施した体験型展示。
評価	企業と共同研究プロジェクトを締結し、高精細画像撮影等の先端技術を用いた高精細複製の製作および展示を行った。ガラスケースなしで、畳に座り作品を鑑賞できる展示方法により来館者から高い満足度を得ることができた。



③ 8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」 大型8Kモニターとタブレットで高精細画像を自由に鑑賞

会期	2018年11月27日(火)～12月25日(日)(26日間)
会場	東京国立博物館法隆寺宝物館 資料室
来場者数	体験者数: 3,614人
アンケート	満足度90.8%(とてもよい、よい)
連携企業等	コンテンツ制作: NHKエデュケーショナル
概要	国宝「聖徳太子絵伝」(東京国立博物館蔵)の超高精細画像を8Kモニターで鑑賞するデジタルコンテンツ。タブレットで自由に操作しながら、ガラスケース越しでは確認できない絵の細部を、聖徳太子の生涯にまつわるエピソードの解説とともに楽しむことができる。
評価	企業との連携を図り、映像コンテンツの開発・提供に取り組んだ。観賞者自身が画像や解説を操作する体験型展示を行い、来館者から高い満足度を得ることができた。




④ 高精細複製品によるあたらしい屏風体験「国宝 松林図屏風」 複製屏風とプロジェクションマッピングによる没入感のある体験型展示

会期	2019年1月2日(水)～2月3日(日)(29日間)
会場	東京国立博物館本館 特別4室
来場者数	95,177人
アンケート	満足度87.2%(とてもよい、よい)
連携企業等	コンテンツ制作: プロトタイプ、複製品活用事業: キヤノンとの共同研究プロジェクト
概要	「国宝 松林図屏風」の高精細複製品を畳の台に設置し、ガラスケースなしで、座って眺めるといった屏風本来の鑑賞スタイルを再現。さらに想像力を広げる映像のインスタレーションで、屏風に描かれた世界を、より能動的に楽しんでもらう体験型展示。
評価	企業との連携を図り、高精細複製品および、演出効果の高い映像コンテンツの開発に取り組んだ。晩冬の松林の一日を描く映像と音響のインスタレーションを上映し、来館者から高い満足度を得ることができた。




2018年度に引き続き、高精細複製品や映像等のデジタルコンテンツを使った体験型展示を行った。東京国立博物館で実施した企画を地方館に巡回し、より多くの人びとに文化財に親しむ機会を提供した。地方館にコンテンツを展開する際のノウハウなど新たな知見を得ることができた。新型コロナウイルス感染症拡大のため、予定されていた事業2件が、次年度に延期された。


① 「びじゅチューン!×きゅーはく なりきり美術館」
なりきり日本美術館 (2018年トーハク開催) の地方巡回1

会期	2019年8月6日(火)～10月14日(月・祝)(62日間)	
会場	九州国立博物館	
来館者数	88,214人(4階文化交流展入場者数)	
連携企業等	共催:九州国立博物館、NHK福岡放送局、コンテンツ制作:プロトタイプ、凸版印刷、TNYU	
概要	2018年トーハク×びじゅチューン!「なりきり日本美術館」で制作した5コンテンツ(神奈川沖浪裏/大橋あたけの夕立/洛中洛外図屏風/見返り美人図/麗子微笑)と縄文土器ハンズオンを、夏休み期間中の九州国立博物館にて実施。共催のNHK福岡放送局とともに、びじゅチューン!コンサート(イベント)を実施。	
評価	造作や運用方法を適宜変更し、開催館の状況に応じた展開を試み、地方巡回に関するノウハウを得ることができた。SNSを活用したフォトコンテストの実施など、広報面でも寄与。会期中の文化交流展入場者数は昨年比約1.5倍となり、来場者からの満足度も高かった。	

② 「びじゅチューン!×TAD なりきり美術館」
なりきり日本美術館 (2018年トーハク開催) の地方巡回2

会期	2019年8月10日(土)～10月20日(日)(60日間)	
会場	富山県美術館2階 展示室3	
来館者数	33,140人	
連携企業等	共催:富山県美術館、NHK富山放送局、コンテンツ制作:プロトタイプ	
概要	2018年トーハク×びじゅチューン!「なりきり日本美術館」で制作した2コンテンツ(神奈川沖浪裏/大橋あたけの夕立)を、夏休み期間中の富山県美術館にて実施した。共催のNHK富山放送局とともに、びじゅチューン!ライブin富山(イベント)を実施、来場者から高い満足度を得た。	
評価	33,000人を超える来場者を得て、地域の美術館の活性化に寄与することができた。SNSを活用したフォトコンテストの実施など広報面でも貢献することができた。	

③ 8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」2019
2018年度公開8Kコンテンツの多言語化

会期	2019年10月29日(火)～11月24日(日)(27日間)	
会場	東京国立博物館法隆寺宝物館 資料室	
体験者数	体験者数:19,293人(うち英語版1,799人)	
アンケート	満足度87.8%(とてもよい、よい)	
連携企業等	コンテンツ制作:NHKエデュケーショナル	
概要	観覧者自身が操作する8Kモニターを使用した体験型鑑賞コンテンツ。昨年に引き続き、企業との連携を図り、新たに映像コンテンツ(英語版)と操作ガイド映像の開発・提供を行った。関連事業として、「ギャラリートーク 国宝『聖徳太子絵伝』-微笑みの太子に会う」(2019年11月1日(金)・23日(土・祝)、参加者:328名)を実施。	
評価	昨年比で5倍の体験者数を数え、内外の来館者から高い満足度を得ることができた。英語版の制作により海外からの来館者にも「聖徳太子絵伝」に親しむ機会を提供することができたことは大きな成果である。	

2018年度

複製 5件 その他 7件

企業や各種団体と連携して、先端的な技術による文化財の複製を製作した。また、プロジェクションマッピングやVRの手法を用いたデジタルコンテンツの開発も行った。これらの複製やデジタルコンテンツを単独、または組み合わせて展示・イベントで公開、また「ぶんかつアウトリーチプログラム」などの教育プログラムで活用した。こうした試みにより、文化財の新しい鑑賞体験を可能にし、多くの人に文化財に親しむ機会を提供することができた。複製、デジタルコンテンツの企画・制作にあたっては、様々な企業の技術について視察・調査を行い、複製制作の技術に関する知見を深めた。



国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」(複製)

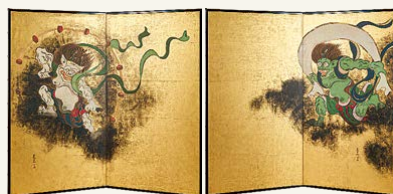
	材質・技法	制作	備考
絵画			
「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」	和紙に印刷・金箔貼付	綴プロジェクト(寄贈)	原品:イギリス・大英博物館蔵
国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」岩佐又兵衛筆	和紙に印刷・金箔貼付	キヤノン	
考古			
「土偶」山梨県笛吹市御坂町上黒駒出土	樹脂製	凸版印刷	ハンズオンレプリカ
「火焰型土器」伝新潟県長岡市馬高出土	土製	トリアド工房	ハンズオンレプリカ
国宝「火焰型土器」新潟県十日町市笹山遺跡出土	土製	大塚オーミ陶業	原品:十日町市博物館蔵
デジタルコンテンツ			
「体感!ザパードブーン 北斎」	映像・体験型	プロトタイプ	2018年7月~9月「なりきり日本美術館」
「見返らなくてもほぼ美人」	映像・体験型	TNYU	2018年7月~9月「なりきり日本美術館」
「洛中洛外 グルメチェック」	映像・体験型	凸版印刷	2018年7月~9月「なりきり日本美術館」
「顔 パフォーマー 麗子」	映像・体験型	TNYU	2018年7月~9月「なりきり日本美術館」
8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」	8K・体験型	NHKエデュケーショナル	2018年11月~12月東京国立博物館法隆寺宝物館にて公開
映像作品「国宝 松林図屏風」	映像・体験型	プロトタイプ	2019年1月~2月東京国立博物館本館展示
VR			
「空海 祈りの形」	VR映像	凸版印刷	2019年3月~6月TNM&TOPPANミュージアムシアターにて上演

*原品について特に記載のないものは東京国立博物館蔵

2019年度

複製 21件 その他 5件

2018年度に引き続き、企業や各種団体との連携により、先端的な技術による文化財の複製およびデジタルコンテンツの開発を行った。書跡、工芸作品などジャンルを広げるとともに、ハンズオン用のレプリカ、ならびに復元的な複製品の制作も行った。それぞれの複製品の活用方法に応じて、耐久性の高い素材を選択し、コスト削減を図るなどの工夫も試みた。



重文「風神雷神図屏風・夏秋草図屏風」(複製)



重文「伎楽面 呉女」「伎楽面 迦楼羅」法隆寺献納宝物 (復元複製)

	材質・技法	制作	備考
絵画			
「見返り美人図」菱川師宣筆	絹に印刷	キヤノン	
国宝「花下遊楽図屏風」狩野長信筆	和紙に印刷	キヤノン	復元複製
重文「風神雷神図屏風」尾形光琳筆/「夏秋草図屏風」酒井抱一筆	和紙に印刷・金銀箔貼付	キヤノン	
国宝「納涼図屏風」久隅守景筆	和紙に印刷	綴プロジェクト(寄贈)	

国宝「松林図屏風」長谷川等伯筆	和紙に印刷	綴プロジェクト(寄贈)	
重文「歌舞伎図屏風」菱川師宣筆	和紙に印刷・金箔貼付	綴プロジェクト(寄贈)	
重文「秋草図屏風」俵屋宗雪筆	和紙に印刷・金箔貼付	綴プロジェクト(寄贈)	
「唐船・南蛮船図屏風」狩野孝信筆	和紙に印刷・金箔貼付	綴プロジェクト(寄贈)	原品:九州国立博物館蔵
国宝「松林図屏風」長谷川等伯筆	和紙に印刷	キヤノン	※追加制作
書跡			
「禅院牌字断簡「湯」無準師範筆	和紙に印刷	大入	
「書状」千利休筆	和紙に印刷	大入	
「升色紙」伝藤原行成筆	和紙に印刷	凸版印刷	
「升色紙」伝藤原行成筆	和紙に印刷	大入	
国宝「与虎丘紹隆印可状」圓悟克勤筆	和紙に印刷	大入	
彫刻			
重文「伎楽面 呉女」法隆寺献納宝物	クスノキ製、彩色、金具は金銅製	松久宗琳仏所	復元複製
重文「伎楽面 迦楼羅」法隆寺献納宝物	クスノキ製、彩色、金具は金銅製	松久宗琳仏所	復元複製
考古			
重文「遮光器土偶」青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	樹脂製	凸版印刷	ハンズオンレプリカ
重文「みみずく土偶」埼玉県さいたま市真福寺貝塚出土	樹脂製	凸版印刷	ハンズオンレプリカ
工芸			
「見返り美人図」(絵画)着用の小袖	絹にインクジェットプリント	染技連	ハンズオンレプリカ、5領
「小袖 白綾地秋草模様(冬木小袖)」	絹にインクジェットプリント	染技連	ハンズオンレプリカ、5領
重文「振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様」	絹にインクジェットプリント	染技連	ハンズオンレプリカ、5領
デジタルコンテンツ			
映像作品「国宝 花下遊楽図屏風」	映像・体験型	プロトタイプ	2020年6月東京国立博物館表慶館展示
映像作品「A GLIDE ON THE GREAT WAVE」	映像	凸版印刷	2020年6月～TNM&TOPPANミュージアムシアターにて上演
VR			
「VR刀剣 三日月宗近 岡田切吉房」	VR映像	凸版印刷	2019年7～10月TNM&TOPPANミュージアムシアターにて上演
「正倉院一時を超える想い」	VR映像	凸版印刷	2019年10～12月TNM&TOPPANミュージアムシアターにて上演
「法隆寺 国宝 金堂 聖徳太子のこころ」	VR映像	凸版印刷	2020年3～6月TNM&TOPPANミュージアムシアターにて上演予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止

*原品について特に記載のないものは東京国立博物館蔵

複製活用事業

2018年度

文化財の複製ならびにデジタルコンテンツ等について、博物館・美術館、学校等の教育施設のほか、広く一般に貸し出す事業を開始した。2018年は、複製品の貸与規定を定め、ウェブ、パンフレット等で周知を行った。また、学校や美術館・博物館等を対象とする、複製品を活用したアウトリーチプログラムを開発し、翌年度実施分の申込受付を開始した。

①複製貸出事業

公共・商業施設の空間演出など幅広い用途を想定し、原則として有料で貸し出す事業を2018年12月から受付開始した。



②教育プログラムの提供

東京国立博物館と共同で「ぶんかつアウトリーチプログラム」を開発。3つのプログラムについてのパンフレットを制作し、次年度の申込受付を開始した。

プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう！
(使用複製品: 国宝《松林図屏風》長谷川等伯筆)

プログラム② 屏風体験! 松林図屏風をプロデュース
(使用複製品: 国宝《松林図屏風》長谷川等伯筆)

プログラム③ 絵で読む平家物語
(使用複製品: 《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》)



2019年度

文化財の複製を主に博物館・美術館に貸し出した。また、複製品を活用したアウトリーチプログラムについては、東京国立博物館と共同で、小中高等学校の児童生徒を対象に実施し、学校からも高い満足度を得ることができた。教員のための研修の実施、企業と地方の教育委員会との連携によるアバターを使った遠隔授業の試みなど幅広く展開することができた。

①複製貸出事業 貸出件数 8件

主に美術館・博物館に、展示を目的とした複製品の貸出およびデジタルコンテンツの貸出を行った。

複製品貸出 (7件/うち、有料0件)	2019年9～11月 新潟県立歴史博物館・糸魚川市教育委員会(第34回国民文化祭関連展示に使用) 2019年9月 ICOM京都大会(会場に展示)等
デジタルコンテンツ貸出 (2件/うち、有料1件)	2019年8月～10月 九州国立博物館(なりきり美術館を開催) 2019年8月～10月 富山県美術館(なりきり美術館を開催)



複製品貸出(新潟県立歴史博物館)



複製品貸出(ICOM京都大会)



複製品貸出(糸魚川市相馬御風記念館)

②教育プログラムの提供 実施件数 11件

東京国立博物館と共同で「ぶんかつアウトリーチプログラム」を計11件実施した。(うち講師派遣あり7件、なし2件、遠隔授業1件、教員研修1件)。遠隔授業については、ANAのアバター技術を使って、大分県、姫島村との連携で行った。また、新たに「見て、感じて、楽しむ松林図屏風(使用複製品:国宝《松林図屏風》長谷川等伯筆)」「見て、感じて、楽しむ風神雷神図/夏秋草図屏風(使用複製品:《風神雷神図/夏秋草図屏風》尾形光琳/酒井抱一筆)」の2件のプログラムを開発、2018年度開発のプログラムとあわせてパンフレットを制作、次年度実施分の募集を開始した。

板橋区立上板橋第二小学校	屏風体験!松林図屏風をプロデュース	小学校6年生2クラス 2019年6月15日(土)
杉並区立杉並第二小学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	小学校6年生3クラス 2019年7月5日(金)
大田区教員研修	自分だけの松林図屏風をつくってみよう! 屏風体験!松林図屏風をプロデュース	大田区小中学校 図工・美術教員 2019年10月2日(金)
三重県立四日市高等学校	絵で読む平家物語	高校1年生3クラス 2019年11月6日(火)
鷗友学園女子中学高等学校	絵で読む平家物語	中学生・高校生の希望者 2クラス 2019年12月17日(火)
東京都立小石川中等教育学校	絵で読む平家物語	中学生2年生4クラス 2020年1月14日(火)
大田区立馬込小学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	小学校6年生3クラス 2020年1月21日(火)
大分県姫島村立姫島中学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	中学校2年生 2020年2月13日(木)
大分県姫島村立姫島小学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	小学校1年生、2年生、3年生 2020年2月18日(火)
栃木市立都賀中学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!(講師派遣なし)	中学校1・2・3年生 4クラスずつ 2019年12月16日(月)～12月25日(水)
鷗友学園女子中学高等学校	絵で読む平家物語(講師派遣なし)	中学1年生～高校3年生とその保護者 2020年2月12日(水)～2月25日(火)



アウトリーチプログラム(東京都:小学校)



アウトリーチプログラム(三重県:高校生)



アウトリーチプログラム(東京都:小学校)

企業等との連携

企業との連携により、先端的な技術を使った文化財活用方法の開発、複製品やデジタルコンテンツの制作を行うとともに、その成果の公開を進めた。

2018年度～

参加事業者	キャノン・文化財活用センター					
事業名称	「文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト」					
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高精細複製品利用による、文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・教育プログラムを実施するファシリテーターなど、文化財の活用に係る人材の育成 ・高精細複製品について、原本の再現性、耐久性、活用の際の利便性の向上 					
活動概要	2018年度	高精細複製品制作	1件	2019年度	高精細複製品制作	4件
		キャノンの参加する 綴プロジェクトからの高精細複製品寄贈	1件		キャノンが京都文化協会とともに行っている 綴プロジェクトからの高精細複製品寄贈	5件



参加事業者	凸版印刷・東京国立博物館・文化財活用センター	
事業名称	「バーチャルリアリティに関する共同プロジェクト」	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術による文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・デジタル技術を活用した文化財の鑑賞方法の開発 	
活動概要	2018年度	VR作品監修 1件
	2019年度	VR作品監修 3件



2019年度～

参加事業者	シャープ・文化財活用センター	
事業名称	「8Kモニターを用いた文化財の活用方法の開発に関する共同研究プロジェクト」	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・8Kモニターを活用した文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・8Kモニターを活用した文化財の鑑賞方法の開発と実証実験 	
活動概要	立体作品を8Kモニターで自由に動かしながら鑑賞するコンテンツを開発し、9月に開催されたICOM世界大会にて公開。また、茶椀をテーマにした8Kモニターを活用したコンテンツの開発に取り組み、東洋館ラウンジにて開発コンテンツの実証実験を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、次年度に延期した。	



シンポジウムの開催

公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」

日時	2019年11月23日(土・祝) 13:00-16:00	
参加者	206名	
アンケート	98.9%から「とてもよい/よい」の評価	
概要	「文化財複製をめぐるくぶんかつ」のめざす<新しい展示>	松嶋 雅人 (文化財活用センター企画担当課長)
	「3Dプリンター製「お身代わり仏像」の活用と文化財保護」	大河内 智之 (和歌山県立博物館主任学芸員)
	「セラミックアーカイブの可能性」	大杉 栄嗣 (大塚オーミ陶業株式会社代表取締役社長)
	「模写と複製」	山口 晃 (画家)
	発表者によるパネルディスカッション	



文化財のデータのデジタル化

法隆寺金堂壁画ガラス乾板デジタル化 (2019年度～)

奈良国立博物館にて、法隆寺金堂壁画写真ガラス原板をデジタル化した高精細画像の接合作業を実施。奈良博特別陳列「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」(2019年12月7日～2020年1月13日)にて接合データ3面の映像およびデジタルコンテンツを公開。事業完了は2021年予定。



貸与促進担当

国立博物館は、従来から収蔵品を自らの施設で展示公開するだけでなく、外部のミュージアムにも貸与し、国内外の展覧会に協力してきた。〈ぶんかつ〉は、日本とアジアの歴史・文化をよりいっそう広く伝えるため、国立博物館の収蔵品貸与の促進に取り組む。

貸与促進事業

2018年度

実施館 6施設 貸与件数 61件 来場者数 101,586人

国立博物館と共同で、日本とアジアの歴史・伝統文化の発信ならびに地方創生・観光振興に寄与することを目的として、国内各地のミュージアムに対して国立博物館の収蔵品を貸し出し、それにかかる作品輸送費等を負担する「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を実施した。

この事業は、2017年度に東京国立博物館が開始したもので、2018年度開催分から文化財活用センターとの共同事業となった。2018年度は、大分県立美術館等6施設に、計61件の文化財を貸与、総計101,586人の方が鑑賞の機会を得た。



大分県立美術館「国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展」展示風景

実施館	大分県 大分県立美術館	
展覧会名称	「国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展」	
会期	2018年11月2日～11月25日	貸与件数
来場者数	18,837人	44件
満足度	81%	

実施館	大阪府 大阪歴史博物館	
展覧会名称	「なにわ人物誌 堀田龍之助 一幕末・近代の大阪に生きた博物家―」	
会期	2018年4月25日～6月18日※	貸与件数
来場者数	44,474人	3件
満足度	77%	

(※6月18日に発生した大阪北部地震の影響で、会期短縮：2018年4月25日～6月17日。)

実施館	三重県 斎宮歴史博物館	
展覧会名称	「斎宮のまわりにも魅力がいっぱい 一斎宮で自由研究②―」	
会期	2018年7月14日～9月2日	貸与件数
来場者数	1,744人	1件
満足度	100%	

実施館	滋賀県 彦根城博物館	
展覧会名称	「長曾祢虎徹―新刀随一の匠―」	
会期	2018年10月26日～11月25日	貸与件数
来館者数	13,463人	5件

実施館	大阪府 堺市博物館	
展覧会名称	「堺・経典をめぐる文化史」	
会期	2018年11月17日～12月16日	貸与件数
来場者数	8,654人	2件
満足度	85%	

実施館	東京都 板橋区立郷土資料館	
展覧会名称	「再発見!いたばしの遺跡 ―いたばしの旧石器時代・縄文時代―」	
会期	2019年1月19日～3月24日	貸与件数
来場者数	14,414人	6件

2019年度

実施館 5施設 貸与件数 71件 来場者数 36,507人

高岡市美術館等5施設に、計71件の文化財を貸与、総計36,507人の方が鑑賞の機会を得た。大規模貸与の対象となった高岡市美術館については、交通広告等広報支援も行った。

また、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されたことに伴い、通常の貸与促進事業に加え「キリシタン関係遺品特化型貸与事業」を行った。



高岡市美術館「明治金工の威風 ―高岡の名品、同時代の名工」展示風景

実施館	富山県 高岡市美術館	
展覧会名称	「明治金工の威風 ―高岡の名品、同時代の名工」	
会期	2019年9月20日～10月20日	貸与件数
来場者数	1,408人	32件
満足度	90%	

実施館	三重県 三重県立美術館	
展覧会名称	「没後200年記念 増山雪斎展」	
会期	2019年4月20日～6月16日	貸与件数
来場者数	8,205人	10件
満足度	90%	

実施館	青森県 三内丸山遺跡センター			
展覧会名称	「あおもり土偶展」			
会期	2019年7月20日～9月1日	貸与件数		5件
来場者数	17,987人			
満足度	5段階評価で4.7			

実施館	千葉県 千葉県立美術館			
展覧会名称	「冬のアート・コレクション 近代洋画の先駆者 浅井忠11-トーハクの名画がやってきた！-」			
会期	2020年1月28日～4月12日※	貸与件数		7件
来場者数	2,822人			
満足度	90%			

(※新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により会期短縮：2020年1月28日～3月1日。)

【キリシタン関係遺品特化型貸与館】

実施館	大分県 大分県立先哲史料館			
展覧会名称	「大分のキリスト教史」			
会期	2019年9月21日～11月4日	貸与件数		17件
来場者数	6,085人			
満足度	90%			

保存担当

博物館や美術館等、文化財保存施設における、展示・収蔵環境管理に関する相談対応、改善のための調査、技術支援、また、研修会や講習会の開催などを通じて、質の高い文化財の保存と活用の両立に寄与する。

保存環境に関する相談・助言

2018年度

対応件数 53件

文化財の収蔵・展示環境に関する相談窓口を開設し、博物館・美術館等からの相談に対応、助言を行った。

内容等

- 文化財の保存環境の管理、改善等に関する相談対応 (34件、うち10件に対して現地調査を実施)
- 新築・増改築を行う施設の設計、設備等に関する協議 (19件、うち1件に対して現地調査を実施)



検知剤による、収蔵庫内装木材の有機酸発生状態の検査

2019年度

対応件数 205件

前年度に引き続き、博物館・美術館等からの相談に対応した。また、文化財保護法53条に基づく、所有者以外による国指定品の公開を予定している博物館・美術館を対象とした保存環境調査について、文化庁からの協力依頼を受けて行った。

内容等

- 文化財の保存環境管理、改善に関する相談対応 (118件、うち15件に対して現地調査を実施)
- 新築・増改築を行う施設の設計、設備等に関する協議 (16件)
- 国指定品の所有者以外による公開に関わる資料保存環境調査 (対応件数55件)
- 公開承認施設の申請予定で文化庁が必要と判断した施設の保存環境調査 (対応件数7件)
- 令和2年度貸与促進事業に応募した施設の文化財管理、保存体制の評価 (9件、うち貸与が内定した6件に対して具体的な環境調査を実施)



展示ケース内の空気環境調査

2018年度

外部機関からの依頼に基づき、文化財保存環境管理に関する研修会等での出張講義を行った。

① 外部機関からの依頼による研修会での講義など

1. 資料への光の影響と展示照明技術の動向について” (吉田直人)
文化財虫菌害研究所「第40回文化財の虫菌害・保存対策研修会」(2018年7月5日 国立オリンピック記念青少年総合センター)
2. 保存科学－環境制御(保存環境管理)” (吉田直人)
国文学研究資料館「平成30年度アーカイブズ・カレッジ」(2018年9月4日 国文学研究資料館)
3. 美術館・博物館における照明、温湿度管理” (吉田直人)
第51回全国美術館会議保存研究部会会合(2018年11月28日 金沢21世紀美術館)

② 論文等業績

1. “光による資料への影響の抑制と白色LED展示照明の現状について” (吉田直人)
文化財の虫菌害 No.76 pp. 22-27 2018年12月(文化財虫菌害研究所)

2019年度

1984年度より東京文化財研究所が実施していた美術館・博物館等保存担当学芸員研修が、2019年度より文化財活用センターとの共催で行われることとなった。さらに、文化財活用センター単独で、保存専従者や研究者などを対象とした、環境調査や管理に関する深い知識を学ぶための「保存環境調査・管理に関する講習会」を2回開催した。また、外部機関からの依頼に基づき、文化財保存環境管理に関する研修会等での出張講義を行った(7件)



保存環境調査・管理に関する講習会の様子

① 文化財活用センター主催による研修会等

研修会等	主催	参加者数
	参加者数期間	
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	東京文化財研究所との共催 2019年7月8日～7月19日	31名
第1回 保存環境調査・管理に関する講習会-北川式検知管による空気環境調査と評価	文化財活用センター 2019年7月31日	18名
第2回 保存環境調査・管理に関する講習会-資料保存用資材としての中性紙	文化財活用センター 2019年12月12日	17名

② 外部機関からの依頼による研修会での講義など

1. “展示室内の空気環境” (吉田直人)
高知文化財団 第2回学芸員専門研修会(2019年6月5日 高知県立美術館)
2. “文化財施設における保存環境の把握について” (吉田直人)
文化庁 公開承認施設会議 (2019年6月20日 文化庁)
3. “保存・展示環境の科学” (吉田直人)
文化庁 第11回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー(2019年6月24日 東京国立博物館)
4. “保存科学－環境制御(保存環境管理)” (吉田直人)
国文学研究資料館アーカイブズ・カレッジ(2019年9月10日 国文学研究資料館)
5. “文化財活用センターの役割について” (吉田直人)
“施設のゾーニングと虫菌害防除対策の方法、留意点について”(間淵創)
文化財虫菌害研究所 第39回文化財防虫防菌処理実務講習会(2019年10月10日 日本教育会館)
6. “文化財活用センターの発足とその役割” (吉田直人)
国際フォーラム「地域文化を活用するー地域振興、地域活性に果たす役割」(2019年10月30-31日 台湾・蘭陽博物館)
7. “資料保存の観点からの展示照明管理” (吉田直人)
高知文化財団 第3回学芸員専門研修会(2019年11月21日 高知県立美術館)

③ 論文等業績

1. “保存環境管理に関する人材育成の課題について” (吉田直人)
化学物質と環境No.155 pp. 9-10 2019年5月(エコケミストリー研究会)

デジタル資源

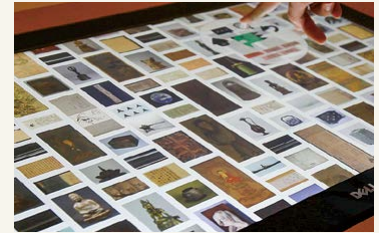
2018年の文化財活用センター発足にあたり、国立博物館所蔵の国宝・重要文化財約1000件の高精細画像を公開する「e国宝」（2001年公開）と所蔵品全体を検索できる「ColBase」（2015年公開）を継承し、文化財のデジタル資源化の推進と運用を行った。また、文化財活用センターウェブページにおいて、機構各施設デジタルアーカイブを網羅するリンク集を公開した。2019年は機構各施設と連携してColBaseのデータの品質改善と追加（テキスト・画像）を推進し、奈良文化財研究所管理の文化財のデータを投入する準備を行った。2020年の公開に向けて、「e国宝」のリニューアルに着手。国の分野横断型統合ポータル「ジャパンサーチ」試験公開版に参加した。

文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

ColBase（国立博物館所蔵品統合検索システム）

多言語化と画像掲載の推進を図った。2020年2月には画面デザインをリニューアルし、利便性を向上させた。

	2019年3月末	2020年3月末
アクセス数	54,338件	76,875件
掲載件数	133,712件	137,175件
画像掲載件数	11,872件 *2018年度追加件数：2,327件 7,029枚	16,670件 *2019年度追加件数：4,798件 18,067枚
解説掲載件数	英語	28,766件
	中国語	8,073件
	韓国語	8,539件
		30,862件
		10,463件
		10,913件



e国宝（デジタル高精細画像）

継続して運営を行い、2019年度には2020年公開に向けてリニューアルに着手した。

	2019年3月末	2020年3月末
アクセス数	3,471,727件	4,247,236件
掲載件数	1,057件	1,057件

総務担当

企業、各種団体、および広く一般の個人を対象としたファンドレイジング活動を通して、多くの人が文化財に親しみをもつとともに、文化財の保存と活用に参画する機会を創出する。

ファンドレイジング活動

2018年度

美術館・博物館等のファンドレイジング活動の事例についてのヒアリング調査（東京国立近代美術館、東京藝術大学、東京大学ほか）や東京国立博物館の資金調達担当との意見交換を行った。ファンドレイジング顧問として、青山学院大学講師の石田和晴氏を迎え、今後の事業についての検討を行った。

2019年度

2020年度の開設を目指して、国立文化財機構の寄附ポータルサイトの制作を行った。また、東京国立博物館と共同で、〈冬木小袖〉修理プロジェクトを立ち上げ、文化財の修理にかかる寄附金募集を開始した（2020年1月～2022年6月予定）。

〈冬木小袖〉修理プロジェクト

- 寄附金額 3,252,272円（2020年3月末）
- ウェブサイトでの寄附募集開始（2020年1月17日～）
 - 館内にプロジェクト紹介コーナー、募金箱、アクティビティを設置（2020年2月18日～）



館内プロジェクト紹介コーナー

広報実績

ぶんかつウェブサイト (2019年4月24日サイトリニューアルオープン)

(集計期間:2019年4月24日-2020年3月31日)

ページビュー数 134,660

閲覧数の多いページ

1. トップページ 17.8%
2. <冬木小袖>修理プロジェクト 5.5%
3. 展示・イベント 4%

訪問者言語 日本語 約93% 英語(米) 約4% その他 約3%

主な更新事項

- ・展示・イベント、研修等の開催情報やアウトリーチ・複製貸出事業、貸与促進事業等の実施実績を更新
- ・対応言語=日・英
- ・<冬木小袖>修理プロジェクトページ開設(2020年1月)



ぶんかつブログ (2019年4月 開設)

進行中の事業や活動の舞台裏、文化財にまつわる基礎知識などを各担当のスタッフが紹介。

投稿一覧(2019年4月~2020年3月 30件)

1. <ぶんかつブログ>スタート!
2. <ぶんかつ>ことはじめ-前編-
3. <ぶんかつ>保存担当の役割-文化財保存のバックアップとして-
4. <ぶんかつ>企画担当のめざすもの
5. 文化財の保存・活用とデジタル資源
6. <ぶんかつ>ことはじめ-後編-
7. 貸与促進事業って、なに?
8. ぶんかつロゴマーク誕生!
9. ミュージアムの文化財保存-学芸員と保存科学-
10. ColBaseのデータ集約と連携
11. 旭センター長が語る!<ぶんかつ>一年の歩み
12. 環境相談対応の15年を振り返って-前編-
13. 文化財をデリバリー-ぶんかつアウトリーチプログラム
14. なりきり美術館2019で“びじゅつ”と遊ぼう!
15. <ぶんかつ>1周年記念記者懇談会!
16. 環境相談対応の15年を振り返って-後編-
17. <ぶんかつ>オフィスへようこそ!
18. 文化財を貸し出す前のしこ踏み
19. 進化する所蔵品データベースと調査研究活動
20. ミュージアムと文化財の生物被害
21. よみがえった飛鳥の伎楽面!!-前編-
22. よみがえった飛鳥の伎楽面!!-後編-
23. 8Kなら会える!微笑みの聖徳太子に。
24. あなたののもとに国宝が!?文化財複製のお貸し出し
25. 国立博物館の文化財であなたの地域の魅力を発信!
26. <冬木小袖>修理プロジェクトが始まりました!
27. 2019年度の貸与促進事業を振り返る

28. <冬木小袖>修理Pの特設コーナーがオープン!
29. 「53条調査」を知っていますか?
30. ColBaseリニューアル

SNS発信 (2019年4月~)

- ・ぶんかつや機構内他機関の展示・イベント、研修等、旬な情報を発信
- ・フォトコンテストの開催など、SNSを活用した広報を展開

【Twitter】 1,223フォロワー (2020年3月末)

【Instagram】 133フォロワー (2020年3月末)

【YouTube】 チャンネル登録者数 24人 (2020年3月末)



プレスリリース配信・記者内覧会等の実施

プレスリリース配信(8件)

- 2018年 7月 2日 文化財活用センター開設
- 2018年10月29日 ぶんかつ&キヤノンプロジェクト発足
- 2018年11月27日 8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」東京国立博物館にて開催
- 2019年10月11日 法隆寺献納宝物 伎楽面「呉女」「迦楼羅」(重要文化財)の復元模造が完成!
- 2019年10月18日 8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」2019 東京国立博物館にて開催
- 2019年10月25日 公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」東京国立博物館にて開催
- 2020年 1月17日 光琳のきものを未来に伝える<冬木小袖>修理プロジェクト開始
- 2020年 2月12日 「ぶんかつアウトリーチプログラム」2020年度の募集を開始

記者内覧会等の実施(4件)

- 2018年 7月 2日 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター開設 報道発表会
- 2018年10月29日 文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト発足 寄贈品贈呈式
- 2019年 7月12日 文化財活用センター開設1周年 記者懇談会
- 2019年10月29日 8Kで文化財国宝「聖徳太子絵伝」2019 記者鑑賞会

印刷物制作

パンフレット・チラシ等印刷物(9件)

1. 文化財活用センター<ぶんかつ>概要2018年版【パンフレット】
2. 令和2年(2020)貸与促進事業募集【チラシ】
3. 文化財活用センター<ぶんかつ>概要2019年版【パンフレット】
4. 2020年度アウトリーチプログラム【チラシ】
5. 令和3年(2021)貸与促進事業募集【チラシ】
6. <冬木小袖>修理プロジェクト【チラシ・ポスター】
7. 文化財複製のお貸し出し【チラシ】
8. 8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」2019【チラシ・ポスター】
9. 公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」【チラシ】

職員

(2020年3月31日時点)

文化財活用センター長 旭 充
副センター長 小林 牧
統括マネージャー 齊藤 孝正
(~2018年12月31日)

企画担当

課長 松嶋 雅人
研究員 西木 政統
研究員 小島 有紀子
専門職 高木 結美 (2018年10月1日~)
専門職 松沼 穂積 (2018年10月1日~)
清水 澄子 (2019年7月1日~)

貸与促進担当

課長 救仁郷 秀明 (~2019年3月31日)
室長 沖松 健次郎

室長 品川 欣也
室長 皿井 舞
室長 高橋 美奈子 (2019年7月1日~)
主任研究員 三田 寛之
専門職 関 紀子 (2018年9月1日~)
アソシエイトフェロー 曾田 めぐみ

デジタル資源担当

課長 田島 島 哲 (~2019年3月31日)
課長 今井 敦 (2019年4月1日~)
室長 二神 葉子
室長 村田 良二
専門職 竹内 俊貴
川合 加谷子 (2019年1月1日~)

保存担当

課長 齊藤 孝正 (~2018年12月31日)
課長 富坂 賢 (2019年4月1日~)
室長 吉田 直人
研究員 野中 昭美 (2018年9月1日~)
研究員 間瀬 創 (2019年1月1日~)
木下 美緒 (2018年10月1日~)

総務担当

課長 樋口 理央
専門職員 中村 恵
係長 木戸 理恵 (~2019年6月30日)
専門職員 古山 珠美 (2019年4月1日~)
本間 明 (2018年10月1日~)
矢野 梓 (2020年1月1日~)

文化財活用センター事業報告書 2018・2019年度

発行日 令和3年(2021)3月31日

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9(東京国立博物館 東洋館5階)

デザイン・印刷 大協印刷株式会社